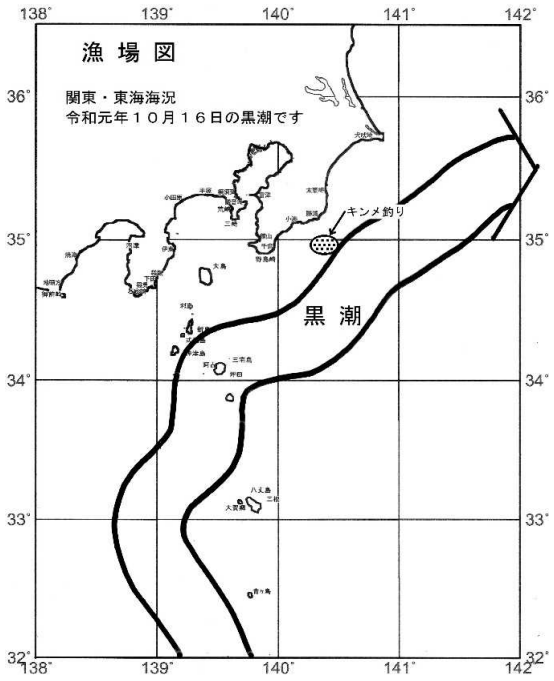
No. 2019-29
令和元年１０月３０日発行
千葉県水産総合研究センター
千葉県水産情報通信センター
千葉県農林水産技術会議

漁　海　況　旬　報　ち　ば

【漁海況概要】（１０月１１日～２０日）

A型　黒潮は10月4日より５～１０マイル接岸しました。北海道沖では親潮の南下が強まっており，東北沿岸の水温が低下しています。これに伴い20℃以下の水域が鹿島灘中部にまで広がり，銚子・九十九里沿岸は２２～２４℃に低下しました。今後，外房沖で黒潮が離岸すると外房沿岸の水温も低下すると考えられます。（１０月１６日）



▲大中型まき網（漁獲は１網当たり）

三沢沖，水温１９℃台海域にて操業し，漁獲 イナダ・ジャミサバ わずか～１０ｔ の漁況でした。

▲サンマ棒受け網（漁獲は１夜当たり）

①花咲の東沖（約１８０海里付近），水温１６℃台海域にて操業し，漁獲 サンマ０．７～１２ｔ，魚体 大１割－中４割－小５割 の漁況でした。

②北海道のはるか東沖（約２５０～４００海里付近），水温１３～１６℃台海域にて操業し，漁獲 サンマ２～４３ｔ，魚体 大１割－中４割－小５割～大０割－中４割－小６割，一部 大３割－中５割－小２割 の漁況でした。

▲キンメ釣り（漁獲は１隻当たり）

勝浦沖，水温２３～２５℃台海域にて操業し，漁獲 キンメ平均２６．０ｋｇ，魚体大・中・小・小小混じり の漁況でした。

【試験船の動向】

●千葉丸

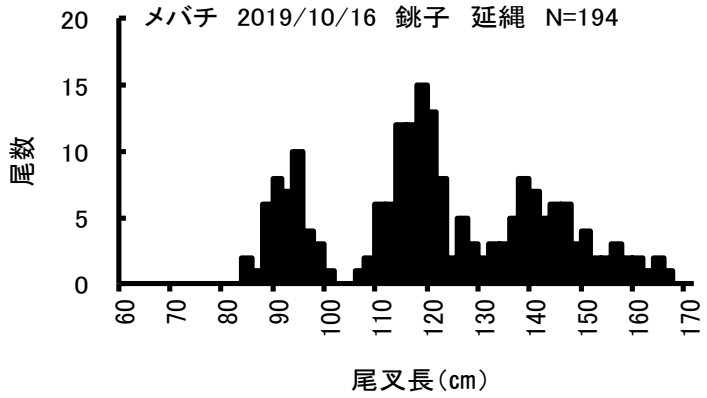
（サンマ調査：漁獲は一夜当たり）

○１７日　サンマ調査：花咲の南東沖（約２９０海里付近），水温１２～１６℃台海域にて調査。水温観測を行い調査のみの漁況でした。

○１８日　サンマ調査：花咲の南南東沖（約２５０海里付近），水温１２～１７℃台海域にて調査。水温観測を行い調査のみの漁況でした。

●ふさみ丸

○１１～２０日　入港中でした。



※ 千葉県水産情報通信センターホームページ　http://cb-sjtcenter.o.oo7.jp/

※　千葉県水産総合研究センターホームページ　http://www.pref.chiba.lg.jp/laboratory/fisheries/index.html

【水揚統計】（ １０月１１日 ～ ２０日）　　単位（水揚量：トン ，　単価：円／ｋｇ ）

漁業種類	漁場	水揚港	延隻数	魚種	水揚量	高値	～	安値
まき網	銚子沖	銚子	3	キハダ	53.2	1,188	～	411
	～			キメジ	2.0	689	～	409
	東沖			イナダ	1.7		311	
				シイラ	0.6		80	
マグロはえ縄	東沖	銚子	5	キハダ	4.4	2,133	～	153
				バチ	21.0	3,290	～	300
				ダルマ	18.4	2,112	～	200
				ビンナガ	1.4	739	～	240
				マカジキ	2.4	1,223	～	100
				メカジキ	2.2	1,336	～	206
				シロカワカジキ	0.2		189	
				クロカワカジキ	3.3	688	～	68
				マンダイ	0.1		200	
		勝浦	2	バチ	2.8	2,239	～	253
				ダルマ	5.0	1,450	～	325
				キハダ	0.3	1,623	～	843
				キメジ	0.3	578	～	250
				ビンナガ	1.0	550	～	400
				マカジキ	1.0	480	～	193
				メカジキ	0.3	885	～	625
				クロカワカジキ	0.7	461	～	171
				マンダイ	0.1		63	
				ヨシキリ	1.5		80	
カツオ一本釣	近海	勝浦	2	カツオ	3.6	1,911	～	231
底釣り	外房沖	勝浦	37	キンメ	1.6	9,000	～	1,411
		天津	62	キンメ	1.2	9,169	～	1,230
刺網	外房沖	大原	19	タイ	0.4	2,590	～	195

資料：漁況日報(標本船・県内漁業無線局)，漁海況情報（都県水試・漁業情報サービスセンター），水揚げ報告（県内主要港）

漁海況トピックス

九十九里海域におけるチョウセンハマグリの漁獲状況と稚貝の分布状況について

チョウセンハマグリは，九十九里海域の貝類漁業にとって重要な資源です。千葉県では，稚貝（1歳貝）の分布状況を把握するため，2004年から毎年秋季に稚貝調査を実施しています。今回はチョウセンハマグリの漁獲状況と2019年9月に実施した稚貝調査の結果を報告します。

１．漁獲量の推移

九十九里海域におけるチョウセンハマグリの漁獲量は，2012年以降1,000トン以上に急増し，2014年には1,923トンと1958年以降で最大の漁獲量となりました。2018年の漁獲量は1,403トンで，2014年以降減少傾向にあります。うち貝桁網の漁獲量は2014年から2017年にかけて減少していましたが，2018年は1,261トンで，2017年（1,219トン）を若干上回りました（図1）。

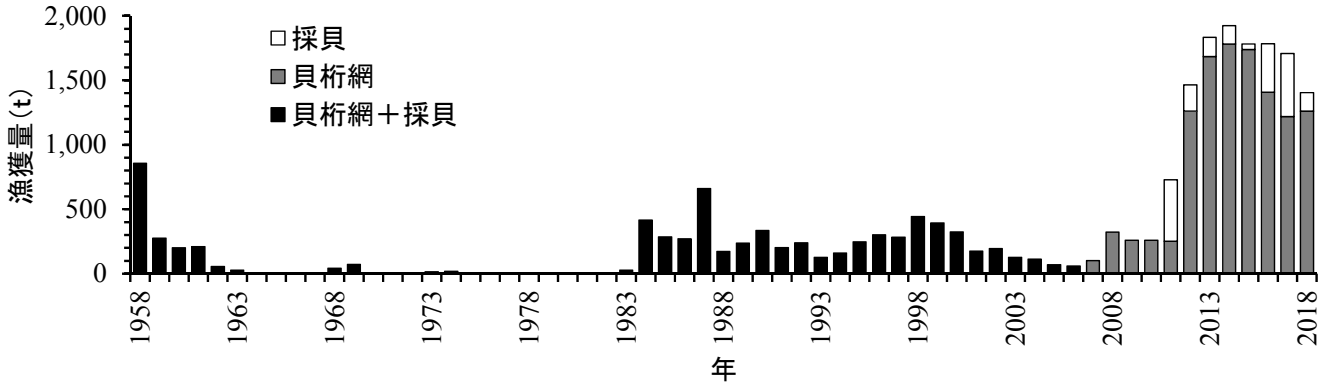


図1　チョウセンハマグリ漁獲量（飯岡～一宮）の経年変化
2006年まで千葉農林水産統計年報。2007年から千葉県調べ（2007～2010年は貝桁網のみ）

２．稚貝の分布状況

2019年9月12日に，旭市～一宮町の20地点の汀線（波打ち際）で，腰まき漁具と枠取りにより稚貝の分布を調査しました（図2）。

採捕されたチョウセンハマグリの殻長は2～53mmで，殻長18mmモードの2018年生まれ（1歳貝）が主体でした（図3）。

調査点別の1歳貝の分布密度は，屋形（St.15）で最も高く162.9個体／m²，次いで野手（St.9）で154.6個体／m²でした。20地点のうち11地点では，過去の結果と比較し高い分布密度でした（図4）。

全調査点の<u>平均分布密度は33.7個体／m²で，2017年から2年連続で増加し，調査開始からの16年間で3番目に高い結果</u>となりました（図5）。

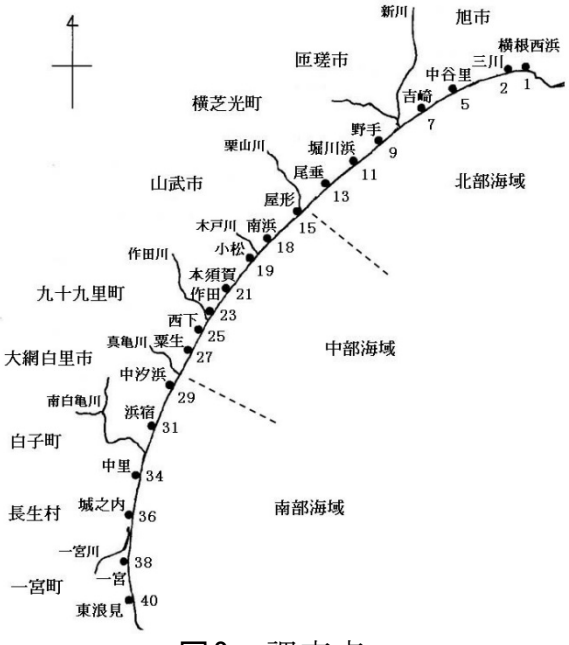


図2　調査点

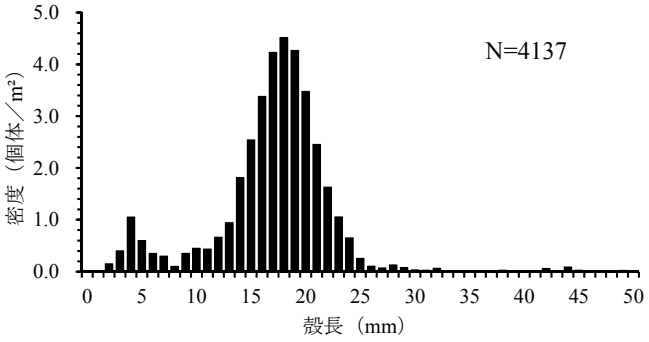


図3　稚貝調査で採捕された
チョウセンハマグリの殻長組成

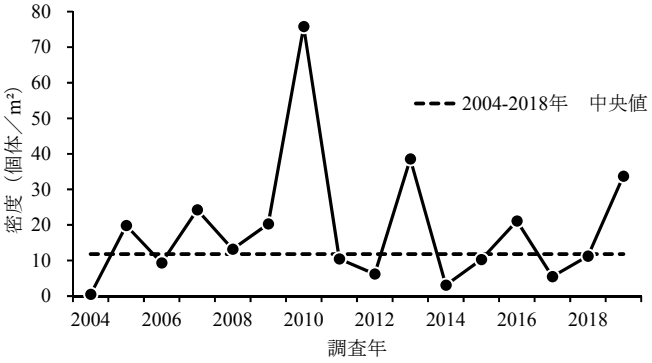


図5　1歳貝の平均分布密度の推移

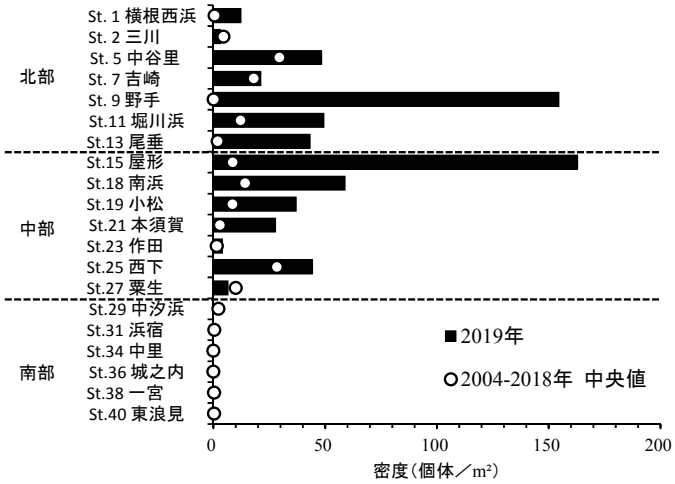


図4　調査点別1歳貝の分布密度

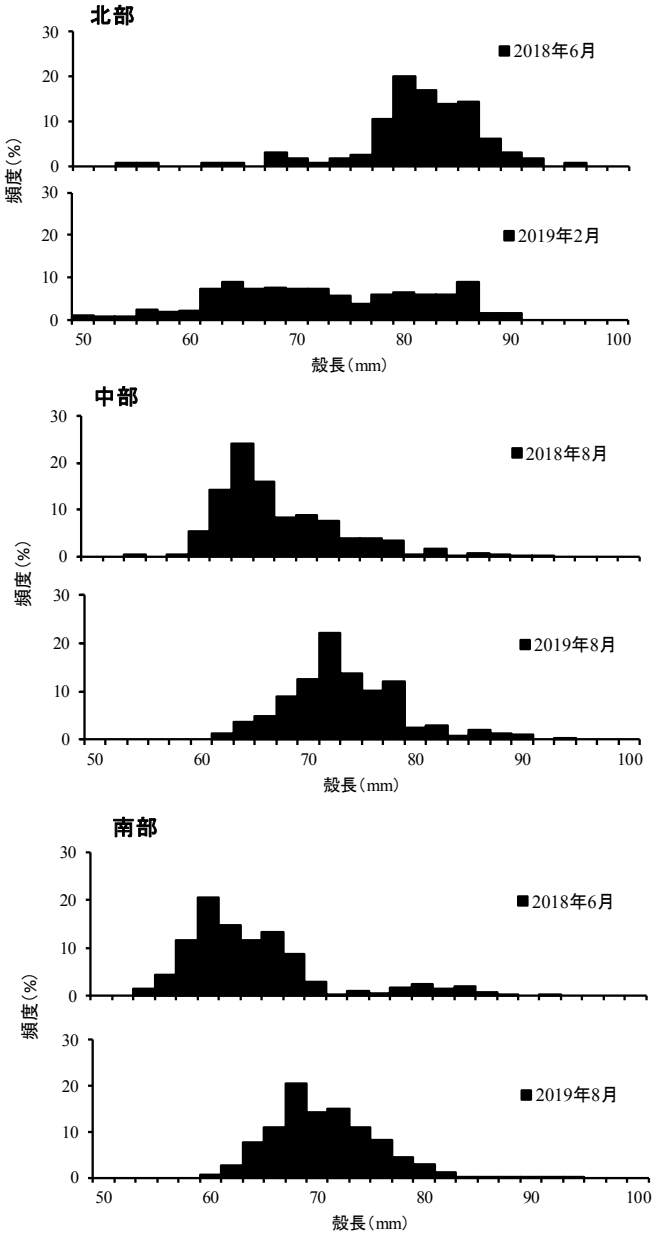


図6　2018年～2019年に貝桁網で漁獲
されたチョウセンハマグリの殻長組成

３．漁獲物の殻長組成

2018～2019年に貝桁網で漁獲されたチョウセンハマグリの一部を測定したところ，九十九里海域北部では2018年に殻長80mm前後の群が主体でしたが，2019年には新たに約60～75mmの群が漁獲加入している状況が確認されました。一方中部，南部では，2018年に60mm台前半がモードであった群が成長し，2019年には70mm前後がモードの群となって漁獲されていました（図6）。

2019年に北部で漁獲加入した群，2018～2019年にかけ中部，南部で漁獲されている群は，殻長と年齢の関係から，2015年生まれの4歳と推定されます。2016,2017年生まれの群（2017,2018年稚貝調査時の1歳貝）の分布密度がやや低かったことから（図5），**2015年生まれの群（2016年稚貝調査時の1歳貝）が当面漁獲の主体となることが予想され，各地先の資源状況や価格を考慮しながら計画的に利用していくことが重要**です。

なお，今回比較的高い分布密度が確認された2018年生まれの群については，2021年頃からの漁獲加入が期待されます。

（千葉県水産総合研究センター　高草木将人）